

2026 年 5 月 19 日

当院にて機械的血栓回収療法および減圧開頭術の治療を受けられた

患者さん・ご家族様へ

- 当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。
- この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないとのことご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください(同意撤回可能期間：2030 年 3 月 31 日)。お申出による不利益は一切ありません。
- ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】

本研究の対象となる方は、当院において研究対象期間内に急性期脳梗塞と診断され、前方循環領域の大血管閉塞に対して機械的血栓回収療法を受けられた方、または前方循環領域の広範な脳梗塞・悪性脳梗塞に対して減圧開頭術を受けられた方。

【研究対象期間】 2009 年 1 月 1 日より 2029 年 3 月 31 日まで（予定）

【研究課題名】急性期前方循環脳梗塞における機械的血栓回収療法後減圧開頭術の関連因子および転帰に関する後方視的研究

【研究責任者】 土浦協同病院 脳神経外科 廣田晋

【研究の目的】

急性期脳梗塞に対する治療として、詰まった血管をカテーテルで再開通させる機械的血栓回収療法が広く行われています。一方で、治療後であっても脳梗塞の範囲が広い場合や脳の腫れが強くなる場合には、頭蓋骨の一部を外して脳の圧を下げる減圧開頭術が有用な場合があります。

本研究では、当院で機械的血栓回収療法を受けられた患者さんのうち、どのような方が減圧開頭術を必要としたのかを調べます。また、減圧開頭術を受けられた患者さんについて、機械的血栓回収療法を先に受けた方と受けていない方を比較し、治療経過や退院時・発症後約 90 日時点での状態に違いがあるかを検討します。この研究により、重症脳梗塞の患者さんに対して、より適切な治療方針の判断、手術の時期の検討、今後の見通しの説明に役立つ情報を得ることを目的としています。

【利用するカルテ情報・資料】

本研究では、通常診療の中で得られた以下のカルテ情報および資料を利用します。

診療録に記載された年齢、性別、既往歴、内服薬、発症前の日常生活自立度、発症時刻、来院時刻、診察時の神経症状、入院時の重症度、治療内容、治療経過、合併症の有無、退院時または発症後約 90 日の状態などの情報を利用します。また、血液検査、頭部 CT、頭部 MRI、脳血管撮影などの検査結果を利用します。画像検査からは、脳梗塞の範囲、閉塞した血管の部位、脳の腫れの程度、出血の有無、再開通の程度などを確認します。

機械的血栓回収療法を受けられた方については、治療までの時間、治療方法、使用した機器、再開通の程度、治療中および治療後の合併症などの情報を利用します。減圧開頭術を受けられた方については、手術日、手術までの時間、手術記録、術後経過、周術期合併症、再手術の有無などの情

報を利用します。

本研究では、これらの情報を個人が特定されないように加工したうえで解析します。研究のために新たな検査や治療を追加で行うことはありません。

【個人情報の取り扱い】

- お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。
- 本研究で得られた臨床情報およびそのデータの収集方法を将来、脳卒中や循環器疾患の研究のために二次利用する場合や、研究計画書を変更する場合があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て研究統括管理責任者の許可を受けて実施されます。

【問合せ先】

土浦協同病院 脳神経外科 廣田 晋

電話 029-830-3711、Fax 029-846-3721